アメリカビーバー　ダムづくり世界一



『ギネス世界記録』に「いちばん長いビーバーのダム」としてのっているのは、カナダのウッドバッファロー国立公園にあるダムです。長さは約八百五十メートル。地球でいちばん大きな動物、シロナガスクジラを三十頭ほどならべた長さです。この巨大なダムをつくったのは、北アメリカの川や池にすむ、アメリカビーバーです。

二〇〇七年、研究者が人工衛星の写真から、このダムを見つけました。古い写真をさかのぼると、ダムづくりは一九七〇年代の半ばに始まり、何世代ものビーバーが受けつぎながら、のばしてきたと考えられています。道もない森のおくにあり、初めて人がたどり着いたのは二〇一四年でした。

アメリカビーバーは、北アメリカでいちばん大きなネズミのなかまで、体重が二十キロをこえることもあります。前歯はオレンジ色で、一生のびつづけます。【　①　】、木をかじりつづけても、歯がなくなってしまうことはありません。この歯で、太い木もかじりたおしてしまうのです。

ビーバーの体には、水の中でくらすためのくふうがつまっています。後ろ足には水かきがあり、平たいしっぽは、泳ぐときにかじの役目をします。一度もぐると、十五分ほど息つぎなしでいられます。

では、ビーバーはなぜダムをつくるのでしょう。ビーバーは、木の枝とどろを積み上げて川をせき止め、池をつくります。そして、池の中に、枝とどろで巣をつくります。巣の入り口は水の中にあるので、オオカミなどのてきは入ってこられません。【　②　】、池の水が少なくなると、入り口が外に出てしまいます。そこで、ダムで水をためて、池の深さを保っているのです。

むかしの北アメリカには、たいへん多くのビーバーがいたと考えられています。【　③　】、毛皮をとるために数多くつかまえられ、一九〇〇年ごろには、とても少なくなってしまいました。その後、つかまえてよい時期や方法を決まりで定め、少しずつ数を取りもどしてきました。

近年、ビーバーは「水をたくわえる名人」として見直されています。水不足になやむアメリカの西部では、ダムでせき止められた水が、まわりの土の中にもしみこんで、たくわえられることが分かってきました。そこでアメリカのカリフォルニア州では、ビーバーを川にもどす取り組みが始まっています。

世界一長いダムは、ビーバーが身を守るための大切な家の一部なのです。ビーバーがつくった池は、魚や鳥など、多くの生き物のすみかとなり、人のくらしも助けているのです。

選択

文章の（　①　）～（　③　）に入る言葉を、それぞれア～ウから選んで○をつけましょう。

①　ア しかし　　イ そのため　　ウ たとえば
②　ア ただし　　イ だから　　ウ つまり
③　ア なぜなら　　イ さらに　　ウ ところが

記述(1)

ビーバーの巣に、オオカミなどのてきが入ってこられないのはなぜですか。文章をもとに書きましょう。

記述(2)

あとの12個から言葉を選んで（　）に入れ、文章全体をまとめましょう。

世界一長いビーバーのダムは、約（　①　）メートルあり、何（　②　）ものビーバーがのばしてきました。ビーバーは、一生のびる（　③　）で木をかじりたおし、ダムをつくります。水をためて池の（　④　）を保ち、身を守ります。（　⑤　）をとるために数がへりましたが、人々が決まりを定めたことで数を取りもどし、今では（　⑥　）不足の対策としても見直されています。

八百五十　八十五　世代　週間　前歯　しっぽ　深さ
広さ　毛皮　肉　水　食べ物

①	③	⑤
②	④	⑥

漢字

漢字に直して書きましょう。

(1)　ぼうえき
(2)　ふくざつ
(3)　うちゅう
(4)　じゅんび

© ドリパパの国語テスト　doripapadrill.com

こたえ

アメリカビーバー

選択（せんたく）

①イ　②ア　③ウ

①＝そのため／②＝ただし／③＝ところが

記述

⑴巣の入り口が水の中にあるから。

⑵①八百五十　②世代　③前歯　④深さ　⑤毛皮　⑥水

⑴は同じ意味が書けていれば○です

漢字

⑴貿易　⑵複雑　⑶宇宙　⑷準備

© ドリパパの国語テスト　doripapadrill.com